

さっぽろ創世スクエア(札幌創世 1.1.1 区北1西1地区市街地再開発事業)竣工について

札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室

1. はじめに

札幌創世 1.1.1 区(さんく)北1西1地区市街地再開発事業にて整備が進められてきた『さっぽろ創世スクエア』が札幌の新たなランドマークとして、5月に竣工しました。

北1西1地区と大通西1丁目、大通東1丁目の3街区は「創世 1.1.1 区」と呼ばれ、かねてより札幌市を含む地権者によりまちづくりの検討が進められ、2010年には「札幌創世 1.1.1 区まちづくり指針」をまとめました。一体性のあるまちづくりを実現することを念頭に置きながら、街区単位の事業化を目指すこととしており、北1西1地区の再開発事業は、そのリーディングプロジェクトとして進められてきました。



図1 さっぽろ創世スクエア位置図

2. 事業の特徴

札幌創世 1.1.1 区北1西1地区市街地再開発事業は、札幌市及び民間6者の市街地再開発組合が施行者となって進められました。大きく2棟の構成となっており、高層棟にはオフィス、放送局、低層棟には札幌文化芸術劇場を中心とした札幌市民交流プラザ、地下には駐車場や公共駐輪場、地域冷暖房施設が整備されています。

(1) 札幌市民交流プラザ

札幌文化芸術劇場、札幌文化芸術交流センター、札幌市図書情報館から成る公共施設です。劇場は、北海道初となる多面舞台を有し、オペラ・バレエなどの舞台芸術や各種コンサート、大規模な会議など様々なジャンルの催しが可能です。また、図書・情報館は課題解決型図書館として、これまでの貸出を中心とした図書館ではなく、調査相談・情報提供に特化した施設です。

(2) 地域冷暖房施設

高効率の天然ガスコージェネレーションシステムにより発電を行い、当施設へ電力を供給し、排熱を利用して当

施設及び近隣の市役所本庁舎へ熱の供給を行います。また、商用電源が途絶した場合でも、一定の電力と熱の確保が可能であり、都心の強靱化にも貢献しています。

(3) 快適な歩行者動線とパブリックスペースの確保

新たに整備される西2丁目地下歩道と地下2階で接続することで、地下鉄大通駅からの快適な歩行者動線を確保しています。併せて、敷地外周部に歩道沿い空地、建物内部で街区を東西南北に貫く動線を確保することで、都心の回遊性向上や創成川東側とのつながりの強化を図っています。

また、街区の角には辻広場を設け、今後、様々なイベントを行うことで、新たなにぎわいの創出を図っていきます。



図2 外観写真と歩道沿い空地と辻広場

3. 今後の都心のまちづくり

創世 1.1.1 区においては、次に続く事業として、大通東1丁目地区において検討が進められております。

また、駅前通りを中心とした都心部の建物は1972年の冬季札幌オリンピックに向けて建てられたものが多く、一斉に建物の更新時期を迎えています。これを好機と捉え、再開発事業をはじめとした、官民連携による取組を通じて、まちの低炭素化や強靱化、快適性やゆたかさの向上といった観点で都心のまちづくりを進めていきます。

<事業・建物概要>

建物名称	さっぽろ創世スクエア
構造	S・RC・SRC造、制振構造
階数	地上27階、地下4階(建物の表示階) 地上28階、塔屋1階、地下5階(確認申請の階数)
建物高さ	高層棟 約124m、低層棟 約66m
敷地面積	11,675.94 m ²
建築面積	9,431.66 m ²
延床面積	131,891.72 m ²
設計監理	日建設計・北海道日建設計共同企業体
施工	大成建設・岩田地崎建設・伊藤組土建・岩倉建設・丸彦渡辺建設共同企業体